

おはな

2009. 8. 28.

夏休み特集 2. 自主学童保育ささのはクラブ

No.23

<水泳教室>

今年の水泳教室は4日間、コナは2名でした。急に都合が悪くなって、1名の日もありましたが、大勢の子ども達に、基本的な練習の仕方をしっかりと教えてもらいました。ビート板の使い方、パタ足の仕方、息つぎの仕方等、1人1人がていねいに教えてもらいました。少し上手な人には、効率の良い手や足の動かし方から水の中の乗り方としてさが立ちの仕方まで、上級コースの人達は、深いプールでフォームを直してもらって泳いでいる本人が「早く泳げようになった」と自覚できたようでした。でも、ささのはでお願いして以来、ずっと中心になって他にきてくれるコナを捜して頼んでいた中山コナが、水泳協会を引退したから、来年から自分には捜しは難しいと告げられました。夏休みの初めに水泳教室を行なうことで一夏のプールに安心して行けたことを、来年度以降も続けたいので、中山コナから教えてもらった候補者に連絡を取って今後もしばしば続けたいと思っています。

今年も、④に来て頂き、上級コースの子達を見てもらったり男子ロッカーのめんどうを見てもらってとても助かりました。ありがとうございます。

★イベント

全女のいながた3日間は、4・5年の男子4名に男子ロッカーのことはお願いしました。4人の1年生の担当にそれぞれお任せしてもらい、「忘れ物がないうちによろしく」「あーいよいよおれと肩持ち良く引き受けてくれた方達。1年だけじゃなくて、3年もきちんと言う事を聞いたようで、プールサイドにも全員まとまってきました。怒らすせがす。でも最後まで不都合、とっていたみなさんには頭が下がりました。1〜3年はロッカーに忘れ物をするという単純なことだけでなく、プールサイドやシャワー室や、???はタオルや水着を置いて来て、「ないない!!」入場カードを関係のない機械に入れてしまっただけで出て来ない...。そんなことが次々起るとも、いっしょに



捜しに行ってくれたり、④に伝えに来てくれたり、の〜んざりしている人が終わるまでじ〜と待っていたり、とにかく、全員がそろったことを確かめ終わるまでは、ロッカーの入口から出て来ないのには感心しました。ありがとうございます。

<ささのはの先輩たち>

今年の夏は、ささのはの先輩たちに色々とお世話になりました。

- ① ささのはのアルバイトに来てくれたり遊びに来てくれたりした「リエかお姉さん」
- ② 子ども文化センターにアルバイトで来ている「ともみお姉さん」
- ③ 子ども文化センターにアルバイトで来ている「けいお兄さん」
- ④ ささのはに朝来る時に歩いてきた子達に「ささのはクラブに行くの? ボクも小学生の時行、てんた」と声をかけてくれたという「わたるお兄さん」

①〜③のお姉さんお兄さんは子どもの頃いっしょに遊んで、夢中になって、とても楽しかったことを話しながら、いっしょに遊んでくれました。「よくお話し、面白かったよね、みんなおもしろくなって、失敗すると△△にものすごく怒られたんだ」と、「エスケンが面白くて早く学校から帰ってやろう、と急いで帰って来たよね」「オレなんて、3年までにけん玉初段になれなくて、くやして練習して、やっと初段になれたのになんで今、4段とか居るの? シャックだよ」「トランプお、やり出したらやめられなくて、夏休みに1日やったことあるよね...」すっかり立派なおとなになった人達と話して、④として感じたことは、今のささのはの子達にとり、もともと遊び切る事が大切だということ。子ども達が社会の中で生きていく(子ども社会も含め)には必要な力は、みんな遊ぶ中でけんかしたり、楽しんだり、やたーと思ったりしながら一番身に付くんだということ。9月以降、あの先輩達の頃とは環境が変、たけれど、何を大切にすべきかを考えさせられた、夏休みでした。

それにしても、ささのはの先輩って、かなり近所にいっしょに住んでいるんだけど、どうもこれにはささのはの子達も、見てわかるようなんです。そして、夕方も「そんな所で遊んでないで早く帰れ」と声をかけてくれているようなんです。色んな人に見守られて幸せですね。

<渋谷一都会に行ったささのはの子達>

お盆の土曜日は一番子どもの少ない日でした。遊ぶには少ないし、出かけるように行ったのが渋谷にある東京都児童会館。この時期は毎年おはな産教をやっているのです。児童館のおはな産教だからみんなにわからない言葉、でも入る入らないで終わった後、一度入ったら面白くて8〜9回も入っていました。こんなは何回も、しかも7〜キーと叫びながら入ったおはな産教も大サービスをしてくれたので、本来いらないはずのおバケ達がいっしょに鍋をかきたたのが出たことでした。④がビバビバは、渋谷の馬場に着いた時のみんなの反応です。「どうしてみんなに大きな田舎の? どうしてこんな人がいるの?」「道路があちにもこちにもいっしょにある、そう!! 東京だからね!!」

夏のおでかけ最終版

<学童保育交流会>

玉禅寺ふるさと公園での夏の恒例の合同行事です。毎年カンカ照りの広～い草原で、学年別にフットボールとお助けメソニックというメソニックを施設対抗でやっています。フットボールは各施設毎の学年の人数がバラバラなので、それぞれ合同チームを作ってやります。初対面の同学年の子ども同士がやるのですが、あの「おれがおれの子も運が、他の学童保育の子に気使いをしたり、パスをしたり、ボールを投げる時にも「いい?」「どうぞ」という声かけがあったり、お互いの強さを認め合ったり、見ていると違う子運のように紳士的でひらくりです。よく向き顔ができるんですね。

午後の川遊びでは、ささのはが一番最後にお弁当を食べ始めたのに、一番初めに川遊びを始め、一番最後まで遊んでいました。川で幼児といふには遊んであげてやるなあと思ったら、ちゅうかり水鉄砲を借りて使ったり、不思議に社交的な方達です。

<砧公園・厚生年金プール>

歩いて、遊んで、歩いて、泳いで、歩いてというトライアスロンのような1日でした。用賀から砧公園までの遊歩道、砧公園内を横断して行くプールまでの道のり帰り道はそれの復路なのでかなりの道りです。遊びはアスレチックなどで上ったり下りたり、走ったり、ぐるぐる回ったり、毎年ここに来るとささのはの子達の体力・自分の体力を確かめてみる事ができます。プールはウォーターライダーのある流れるプールです。毎年ウォーターライダーが身長120cm以上ないとできないというのが一番の問題で、入口の120cm



人形の前には、涙をまぶかっているのです。同じ学年なのに、とか下の学年なのにとかおれの方が運動は得意なのに... 朝から「おれ123cmだから絶対OKだよ」とニコニコ顔の人、でもこの「120cm」人形の前には立つのはキツキツだったらしく、よく見ていたら、人形の前でしばらくためらっていて、エイッと立ち、「いいよ」と言われた時のニコ

という顔が輝いていました。今年は1年生だけが全員できなかったんで、納得できたようです。今年の大問題は帰り道砧公園の出口近くまで来たところで「ポツポツあ」というまに大降りですぐ近くの公衆トイレ(砧公園のトイレは名前付きの立派な建物)に避難しました。雷も鳴りどしどし降りて、降り込んで来て、「ワ～! キー～!」でも男便所の方達は、何もせずにいられない運他にも同じトイレに避難している人の前で、「コマタナ コマタナ ホホトコマタナ～」とピタキ体操の歌に乗せて、大雨でトイレから出られないことを歌ったり踊ったり、雷が

「ドカンバリッ!」となれば「大丈夫、たら大丈夫」と言いながら隣の人と手を叩き合せてリズムの様に伝えて行、て大合唱、雨が止むまで、休みなく歌ったり踊ったり、トイレショーを繰り返してました。その間水はけの悪いトイレまわりは池の様になり、「大水で孤立」の気分でしたが、裏の飛び石伝いに無事脱出しました。プールからこのトイレ避難まで付き合ってくれた細谷女には大変にお世話になりました。プールの男子更衣室でシャワーのついでに手洗い用せけんを髪をあらうためにした子がいたり本当ににお世話になりました。

<葛西臨海水族館>

初遠征でしたが電車はスムーズに行、て駅に到着。大勢の人が入、て行く水族館の門で「ささのはグループの方ですね」と声をかけられ何か感謝しました。子ども達が感激したのは「テニスコートが見えること。海に突き出した「テントデッキ」で涼しい風に吹かれながら昼食を食べました。カモヤカモメが飛んで、船に乗るみたいたね。12:00過ぎから2:30までは、グループ行動で水族館の中を見て回りました。グループ3人～6人で1・2年から高学年までい、よになるようにして、お互いに納得がいたグループにしました。場内に暗くて、大勢の人がいて、面白い魚から海鳥までい、よいて、しかもエイやサメにさわられるコーナーや多摩動物園の昆虫コーナーも出張して昆虫園もあってみんな夢中になっていたので、どうなることかと見ていました。グループを作る時、性格の合った者同士がなるんですね。「アッ見た1人決」というグループからゾーッと見つめるグループまで、グループ間は違っていたが、メンバーは同じような動きで、次に移る時は居ることを確かめていました。各口各口動き回る1年生とい、よの人達はやはり各口各口動き、同じ動き同士、であまり苦勞もないように見え、ました。最後にけんかをしてアッと姿を消した人にはおねとあわてましたが、最後にマアロがエサを食べるのを見て帰、て来ました。おもしろかたね。

<梨がり>

三平梨園という向ヶ丘遊園の梨園に行きました。色々な種類の中から黄色い「あま」とオレンジ色川崎原産の「長十郎」をとりました。「あ、あまが大きい」「あ、せき」「あまがうまい」「あ、バツ、」「気が長くないとできないね」と梨屋さんのおばさんに同情されながら、とった梨の他に色々な種類の梨を「むいて合、て行、て」とごちそうになり、梨で「お腹いっぱい」という経験をさせてもら、て来ました。